

1 めざす学校像

1 スクール・ミッション

- (1)様々な生徒の多様なニーズに応じた「受け止め、支え、気づき・気づかせ、伸ばす」理念のもと「個別最適な学び」教育を行い、自信と自尊感情を育て、才能開花を支援し進路実現・自己実現ができる地域に開かれ信頼できる学校
- (2)Edtech を活用し修得主義と履修主義を適切に組み合わせ、探求的な学習を通して主体的・対話的学びを実践する全国を視野に置いた中学校・高等学校・大学・大学院につながる新たな通信制高等学校の創造

2 スクールポリシー

(1)アド・ミッション・ポリシー 受け入れる生徒像

- 現状に様々な課題を持ちながらも、少しでも変えていきたいという思いや意欲を持つ生徒

(2)カリキュラム・ポリシー 教育課程の基礎理念

- 時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育
- 自己の未来デザインの形成と進路実現・自己実現をめざした教育
- Edtech を積極的に活用し学習の力を活かした多様なニーズの応じた多様な教育内容
- 向陽台コンソーシアムに基づく地域・関係機関との連携によるネットワーク型の教育

(3)グ ラデ ユエーション・ポリシー 目指す人物像

- 良識ある立派な市民として時代の変化に対処できる優秀な人材
- 自他の個性を認め合い、自ら一步前に進める人物(目指す人物像)

3 経営計画推進理念

「人は新たに学ぶことによって創られる。そして時代が創られる。自らの改革なくして成長はない」

重点目標

- 1 生徒一人ひとりに応じた才能開花・学力向上と進路実現への支援
- 2 本人や保護者の思いに寄り添い自己実現を図る丁寧な指導・支援
- 3 広域通信制・単位制のソサエティ 5.0 時代の教育を目指し EdTech を活かした全国展開を図る質の高い教育の提供と実践の発信

目指す学校像

- 変化を怖れず次の時代に挑戦する学校
- 安全で安心できる地域に開かれた信頼される学校
- 中・高・大・大学院につながる新たな通信制高等学校

アクションプランにおける学校像

- 5つの学校像
- (1)学び直しにより自信と自尊感情を育て、個性を活かした心を育てる学校
 - (2)能力開花・才能開花に積極的にチャレンジしグローバル人材を育成する学校
 - (3)不登校生徒等全国の学びの場のない生徒への支援を積極的に展開する学校
 - (4)地域一体地域循環還元型教育を進め、地域創生に貢献する活動を積極的に行う学校
 - (5)通信制・単位制高校として共生社会の実現に貢献する教育を行う学校

(参考) 従来の本校の精神・目標等との関係

建学の精神 ①良識ある立派な市民の育成 ②時代の変化に対処できる優秀な人材の育成
教育目標 「社会で生きる力を育む。市民として社会に貢献できる確かな人物の育成、豊かな知性の育成」

⇒グ ラデ ユエーション・ポリシー

「自己の未来デザインの形成と進路実現をめざした教育を実践する」

⇒カリキュラム・ポリシー

教育方針 「時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育をめざす」

⇒カリキュラム・ポリシー

目指す人物像「自他の個性を認め合い、自ら一步前に進める人物」

⇒グ ラデ ユエーション・ポリシー

I 外的環境に対応した危機意識の共有と課題対応を迅速に図る学校づくり**(1) 全国通信制高等学校認証校として変化を怖れず次の時代に挑戦する学校**

- ①新たな特色ある取り組みの推進と EdTech をさらに活用した安定した向陽台高等学校づくり
- ②学園の新中長期計画(令和3年からの5年計画)に基づく教育の質の確保と生徒増を目指した学校づくり
- ③新たな生徒層の獲得を視野に EdTech を活用した支える教育と才能開花を支援する教育に向けた各コースの見直しと社会資源の活用
- ④EdTech を徹底的に活用した教育と相談体制等「受け止め、支え、気づき・気づかせ、伸ばす」教育の良さを融合させた向陽台教育実践の発信
- ⑤技能連携校での教育圏域の拡大・EdTech の活用による連携の更なる充実

(2) 安全で安心できる信頼される学校

- ①外的環境の変化による生徒の減少に対応した教職協働による学校運営体制及び技能連携校との連携内容の検討・整理
- ②進学や就職実績、資格取得の状況等獲得できる力の明示と出口の見える化を推進し他の通信制高等学校との違いを明確にする発信
- ③EdTech 活用等本校の教育力の充実による学校力量の向上としての類型別カリキュラム等特色ある講座の発信による新たな生徒層の獲得・拡大と発信
- ④学びを止めない教育の推進と「向陽台コンソーシアム」による教育理念を共有した大学等関係機関との連携事業継続による地域連携の構築
- ⑤学校マネジメントの視点による教職協働の推進と学校基礎データの共有・保護・運用管理の明確化

II 学園及び本校の未来を託す人材の育成と学園・学校の良さの継承と充実・発展ための一体感のある機動的でフレキシブルな組織づくり**(1) 学校デジタル化のもと通信制高校の特徴を活かした指導力・授業力の教育力量を高めるチャレンジの支援とマネジメント力の育成**

- ①学校での育成観点の整理のもとチャレンジ力とプラス思考の積極的評価・支援と新たな人材評価育成制度の活用
- ②信頼をベースにした若手・ミドル層の積極的登用による人材育成・女性登用とマネジメント力の育成・向上人材育成
- ③レポートのオンライン化等 Edtech 活用・オンライン発想に対応できる教科指導での人材確保とその登録・採用に係る安定した学園体制の構築
- ④多様なコースに応じた受験指導に対応できる教科指導力と相談機能の充実によるカウンセリング・マネジメント力の向上
- ⑤進学・就職支援等より組織的な相談体制の充実に向けた体制づくり

(2) 学校デジタル化に伴う校務分掌組織の見直しと学校改革の組織的計画的推進

- ①Web 入試等教職協働による EdTech を活用した分掌の業務整理・情報管理力向上と次世代へのスムーズな移行に向けた体制整備
- ②教員層の信頼に基づく役割分担と機能的・一体的・迅速的な組織体制構築と活性化
- ③横断的組織のプロジェクトチームを活用した中堅・若手による学校課題の解決に向けた学校改革の推進
- ④働き方改革に応じた教職協働によるオンライン等を活用した時代に応じた業務の見直しと展開事例の積極的発信
- ⑤本校と技能連携校間でのより一層の EdTech 活用及び連携関係の強化と教育圏域の拡充ビジョンの作成・実行

III EdTech を活用した全国展開をも視野においた学校づくりと「向陽台マン」の実現**(1) 時代に挑戦する学校の特色づくりと学校デジタル化推進**

- ①Googleworks の徹底活用による学校デジタル化とオンラインコースを活用した全国展開を図る新たな特色ある向陽台高等学校づくり
- ②中期経営期計画(5年計画)に基づく学校づくりのなかでの通信制と全日制を活かした教育体制の検討
- ③EdTech を最大限に活用した主体的に学ぶ生徒層を対象とした次の時代に対応した「学習者主体」の教育内容の構築
- ④学習者主体の教育と支える教育と才能開花を支援する教育に向けた「21世紀の教育」を視野に置いたコースの再編・モデルカリキュラムの作成と発信
- ⑤「向陽台コンソーシアム」による関係機関との連携したキャリア教育の推進と技能連携校との EdTech 活用による関係の強化及び教育圏域の拡充

(2) EdTech 活用等学校デジタル化の推進と「向陽台マン」に向けた取り組み

- ①Googleworks を徹底活用したオンラインでの取り組みとその成果を学園 LMS を活かした教育実践と各校の特徴の共有。
- ②中学校、高等学校、大学、大学院へとつながる「22世紀の教育への挑戦」を視野にした通信制教育体制の検討
- ③入試広報における Web 入試の導入等連携の模索と進路指導におけるオンライン活用と連携の検討
- ④「受け止め、支え、気づき・気づかせ、伸ばす」理念の「生徒に寄り添う教育」の良さを大切に「学びを止めない学習者主体の教育」の特徴を活かしたオンラインと実体験を組み合わせたカリキュラム作成の検討と教育実践の展開
- ⑤教職協働による学園ホームページと連携した向陽台ホームページの作成と充実

IV EdTech を徹底活用した多様なコースに応じた教育「生徒に寄り添う教育」「学びを止めない教育」「主体的学習を支える教育」を充実させ 21 世紀の「未来の教室」を目指し「学校力量」を高める**(1) 学校デジタル化のなか多様なコースに応じた ICT 活用による学び直しとチャレンジ精神を高める授業実践力の向上**

- ①Google Works の活用による学校デジタル化のなかでの個別最適化の指導と学習力の活用
- ②双方向の学習アプリ等を活用した授業や教育相談の実施による本校の教育の特色の明確化
- ③学校クラウドの検討・作成を通じた教育クラウドプラットフォームを活用した主体的学習の可能性の検討

(2) オンラインも活用したキャリア形成・就労支援への指導力向上と相談におけるコミュニケーション力も含むカウンセリング・マネジメントの育成

- ①各コースの特徴の明確化と大学進学と就職に向けた進路指導の特徴コースに応じた次の時代を見据えた指導内容の検討及びコースの整理と再編
- ②丁寧な教育相談に向けた教育相談体制の整備と双方向アプリの積極的な活用による組織的な相談体制の充実
- ③90 単位を視野に多様な生徒のコースに応じた社会的スキル指導講座や学校設定教科等を活用した特色ある講座等モデルカリキュラムの作成と具体化

V 「向陽台コンソーシアム」に基づく関係機関等と連携したキャリア教育の実践や特色ある教育の積極的な広報・発信**(1) 教育理念異基づく学校力量を高める外部機関等との教育連携の一層の推進**

- ①不登校生徒を対象とした義務教育段階からの市町村連携モデルの実施と中学・高校・大学・大学院へとつながる通信制を活用した教育の共同研究
- ②次の時代のニーズを満たす「e-スポーツ」や「ドローン」、「ロボット」等での事業所と連携した学外学修の推進と特色ある講座設置
- ③カンパリアティームや才能開花を図る関係機関と連携した人間教育の充実
- ④心理面で課題のある生徒への難関大学進学と基礎学力保障を図る民間との連携による「向陽台指導」の確立と摂陵指導法の融合
- ⑤22 世紀型教育での EdTech を活用した通信制高校の可能性を探る大学等研究機関との連携事業の実施と研究校指定の獲得

(2) 本校の社会的意義・役割の周知と協力関係の構築を目指す HP の充実と SNS 等を活用した本校の特色ある授業や行事等 Web 発信の拡充

- ①文科省委託事業「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」「パナソニック奨励研究」「放送教育研究」等の研究実績の発信と外部機関等との共同研究による VR 等 ICT 活用によるモデルカリキュラムの作成・発信
- ②サティ 5.0 の新たな社会を視野に学校デジタル化での実践や「地域一体地域循環還元型教育」や「インクルーシブ教育」による「共生教育推進モデル」等時代に
応じた通信制教育ならではの教育実践の発信
- ③マスコミ・府内公立学校・保護者・地域等の通信制高等学校の既存イメージの変革に向けた継続的な発信の検討

(3) 技能連携校との組織的連携関係の充実

- ①EdTech 活用による学び直しと自尊感情を育てる教育の展開
- ②「地域一体地域循環還元型教育」の実践例とキャリア形成・就労支援での事例研究
- ③向陽台総合学院における「地域一体地域循環還元型教育」の教育内容及び体制の再検討と生徒募集への対応

3 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

自己評価アンケート結果と分析(令和5年度)	向陽台高等学校 技能連携校協議会からの意見(令和5年度)
<p>○調査 令和5年9月・令和6年1月実施 調査対象:新卒コース1年生3年生、登校型コース3年生、総合コース3年生、オンラインコース3年生、進学コース3年生 合計350名</p> <p>○調査令和5年10月実施 調査対象:教職員45名</p> <p>○調査方法 共にWEBアンケート(Google フォーム)、無記名方式</p> <p>【集計結果】</p> <p>○生徒アンケート評価概要 昨年度より、大幅な伸び(改善)を示した項目 ・本校の生徒指導(遅刻・服装・携帯電話・喫煙等)は、納得できる。 ・本校は、清掃の行き届いた学校である。 ・本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている。 ・本校は、施設・設備の充実した学校である。 ・本校のレポートは、適切な内容・分量である。 ・本校では、進路希望に応じた多様な講座が用意されている。 昨年度より減少に転じた項目 ・私は、部活動に積極的に取り組んでいる。 ・私は、ボランティア活動の意義を理解して、その活動に取り組んでいる。</p> <p>○教職員アンケート評価概要 昨年度より、改善として回答された項目</p> <p>I 基本集計結果と分析 教職員学校評価アンケート結果 (1)前年度比較して大幅に変動した項目 (a)改善した項目数(前年度より<1:よくあてはまる+2:ややあてはまる>が10%以上増加(改善)した項目)16項目 ※参考:昨年度は11項目、一昨年度は8項目</p> <p>①(60% 前年度比+21.4%):<教職員研修>校内研修を企画・運営する組織が確立し、計画的に研修が実施されている。 ②(71.1% 前年度比+18.7%):<教職員連携>意見対立がある場合でも、相手の意見を尊重し、感情的にならずに話をしている。 ③(57.8% 前年度比+17.3%):<私学の独自性>建学の精神が教職員によく浸透している。 ④(57.8% 前年度比+17.3%):<教育環境>各教科の備品や教材教具が十分に整備されている。 ⑤(68.9% 前年度比+14.1%):<教育環境>清掃がいきとどいている。 ⑥(75.6% 前年度比+13.7%):<情報管理>個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。 ⑦(44.4% 前年度比+13.5%):<教育環境>施設・設備の充実は、長期的見通しに立って計画されている。 ⑧(48.9% 前年度比+13.2%):<運営組織>職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討および合意形成の場として有効かつ効率的に機能している。 ⑨(84.4% 前年度比+13.0%):<教科指導>年間の学習計画および評価の基準や方法について、各教科で話し合っている。 ⑩(53.3% 前年度比+12.9%):<教育環境>施設・設備の点検や管理が日常的に行われている。 ⑪(88.9% 前年度比+12.7%):<進路指導>生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。 ⑫(60.0% 前年度比+12.4%):<教育環境>各教科の備品や教材教具が十分に活用されている。 ⑬(77.8% 前年度比+11.1%):<危機管理>事故や事件、災害時に迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確にされている。(危機管理マニュアルが存在する) ⑭(51.1% 前年度比+10.6%):<教職員研修>研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。 ⑮(55.6%前年度比+10.3%):<生徒指導>「学校生活の心得」が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、対生徒や教職員間で話し合う機会がある。 ⑯(93.3% 前年度比+10.0%):<私学の独自性>本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている。</p> <p>分析 ○改善した項目として、前年度より<1:よくあてはまる+2:ややあてはまる>が10%以上の伸びたものが16項目となり、昨年度より5項目増加した。R2:1項目、R3:5項目、R4:8項目と増加傾向にある。改善した16項目のうち、⑥、⑯を除く全てが過去最高値を示している。うち①(60% 前年度比+21.4%)、②(71.1% 前年度比+18.7%)、③(57.8% 前年度比+17.3%)、④(57.8% 前年度比+17.3%)については大幅増となり、④、⑥については昨年度「悪化した項目」リスト3から転じてのランクインとなっている。</p> <p>悪化した項目数(前年度より<1:よくあてはまる+2:ややあてはまる>が10%以上減少(悪化)した項目)3項目 ※参考:昨年度は5項目、一昨年度は2項目該当なし。 ○悪化した項目として、前年度より<1:よくあてはまる+2:ややあてはまる>が10%以上減少(悪化)したものは今年度該当がなかった。僅かに悪化したものとして、「項目48(62.2% 前年度比-6.8%)<教科外活動>部活動の活性化について、工夫して取り組んでいる。」「項目47(42.2% 前年度比-5.4%)<教科外活動>奉仕等の体験学習やボランティア活動が行われている。」がランクインした。</p> <p>良好な項目 ⑯(77.8%前年度比+11.1%)<教育環境>事故や事件、災害時に迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確にされている。(危機管理マニュアルが存在する) ⑰(75.6%前年度比+13.7%)<情報管理>個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。 ⑱(75.6%前年度比+6.5%)<生徒指導>「カウンセリング」を取り入れた生徒指導を行う体制になっている。 ⑲(73.3%前年度比+4.3%)<情報管理>公文書やその他の会議資料等の收受・発送・保管に対する管理がなされている。 ⑳(71.1%前年度比+18.7%)<教職員連携>意見対立がある場合でも、相手の意見を尊重し、感情的にならずに話をしている。 ㉑(71.1%前年度比+2.1%)<教育環境>生徒が快適な学校生活が送れるように教育環境が整備されている。 ㉒(71.1%前年度比+4.4%)<生徒指導>生徒の問題行動がおきたとき、組織的に対応できる体制が整っている。 ○概ね昨年度同様の評価である。今年度新規にランクインした、㉑は前年度比+18.7%は大幅増となっている。</p> <p>課題のある項目 3(あまりあてはまらない)+4(まったくあてはまらない)=70%以上の項目 1項目 ※参考:昨年は2項目。 (83.3% 前年度比-10.6%):<教科指導>他の教員の授業を見学する機会がよくある。 ○昨年度より僅かに減少するも、過去8年間、常にリスト3にランクインしている。</p> <p>II まとめ(考察) 令和5年度は学校デジタル化をより一層推進するため、教職員用タブレットの導入、レポート提出のオンライン化や職員等資料のペーパーレス化、レスポンスの試験導入など様々な取組が実施された。このことに伴って教職員のスキルアップ等をねらった各種研修が多数開催された。もうひとつの大きな取り組みとして、各教科担当教員協力のもと教務部が中心となって、高等学校通信教育規程令和3年改正に基づき、通信教育実施計画の作成・提示と適正な運営を行った。昨年度と比較して「教育環境」「学習指導」「教職員連携」の各項目が高評価となったのは、こういったチャレンジ的な取り組みの結果といえる。 昨年、通信制高校に通う生徒は全国で26万人を超え、今後ますます教育の質と内容に大きな期待が寄せられることは明白である。本校の独自性を大切にしながらも、競合他校がせめぎあう中、選ばれる学校であり続けるためには、常に時代のニーズに応える形へと変化し、進化し続けていかなければならない。次年度以降も向陽台高校チームとなって、社会の要請に応えられる学校づくりを目指していくことが重要である。</p>	<p>○向陽台高等学校 技能連携校協議会からの意見 向陽台高等学校技能連携校協議会は、向陽台高等学校と技能連携校双方の学校教育において、相互発展と運営の円滑化を目的としながら推進するとともに、連携による高等学校教育の振興を目的に設置された会。</p> <p>【自己評価アンケート結果と分析に対して】</p> <p>○生徒指導については、日頃より教職員が意識をもって対応していることが見え、今後も継続した活動を続けていただきたい。</p> <p>○キャリア教育については、特色ある科目の設定、生徒の進路を意識した開講を今後も心がけておこなっていただきたい。</p> <p>○キャリア教育の充実を図る上で多彩な科目設定に心がけながら、時代に則した学校設定教科・科目(独自科目)の拡充を目指して、技能連携教育の発展にも寄与していただきたい。</p> <p>○部活動を積極的に取り組む生徒が昨年より減少気味ですが、対外的に活躍する部活動もあり、生徒主体の教育実践を高めていきながら、さらに活動的な運営を目指して生徒の活躍の場を広めていくことに今後期待する。</p> <p>○ボランティア活動に積極的に取り組んでいることが窺えるが、活動の場をさらに広めていく手段として、広報活動の充実(ホームページの更新・チラシ作成等)にも気をつけながら、展開を図っていただきたい。</p> <p>○学校ホームページで可能な範囲で情報公開をする中、情報発信ならびに学校の特色を高めていき、今後の広報活動において最新の情報が常に提供できるようさらに努めていただきたい。</p> <p>○教職員指導による日々の生徒活動記録は、教育活動の展開を図るうえで重要であり、集約を含めた各情報の整理とともに、生徒に還元できる体制づくりを目指していただきたい。</p> <p>○今後も教育連携を深めながら、私学の特性を十分に発揮し、学習の多様性と、個別指導の充実を掲げながら、特色ある科目の開講を目指して、教育効果をさらに高めていただきたい。</p> <p>○生徒それぞれの進路に対応できるよう日頃から常に新しい情報を提供し、生徒一人ひとりに寄り添った進路指導ができるよう、今後も継続していただきたい。</p> <p>○広域通信制高等学校として連携する各校との連携強化を図り、各地域の情報収集による教育の質の向上を更に高めながら、研修並びに情報共有による実践教育へ繋げていただきたい。</p> <p>○日頃から教職員が教科指導の充実を意識しながら、生徒に寄り添い、還元できる学校運営を推進していただきたい。</p> <p>○学校運営におけるデジタル化をさらに推進し、教育の効率化とともに学習内容のさらなる充実を目指して、技能教育とともに教育効果を高めていただきたい。</p> <p>【まとめ】</p> <p>○ 評価はおおむね昨年度と同様に高評価の水準をキープしていることで、学校の教育活動への信頼は高いので、継続して教育実践を積み上げて欲しい。</p> <p>○ キャリア教育の実践について、更に積み上げを図り発信することが必要であり、教育実践を共有していきたい。</p> <p>○ 定期的な情報共有をこれからも続けていくと共に、ICT化についても情報提供をし、その展開の方法等情報提供してもらい技能連携の各校運営の向上に対応できるよう期待している。</p> <p>○ ホームページを工夫・改善し向陽台と技能連携校の関係がより深まるような内容も検討すべきである。</p> <p>○ 生徒の実態を把握している様子であり、部活動等の活動の工夫を期待したい。</p> <p>○ 通信制評価機構からの認証を受けたことは評価したい。この認証を活かして質の向上を図ることについてさらに協力していきたい。また、大学等との連携を深めていきながら、技能連携校にもプラスになるような工夫を求めている。</p> <p>○ 向陽台高等学校の実践は多様な生徒のニーズに応える工夫とさらに新しい教育を目指している姿勢は、大変評価している。</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	まとめ(5月)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外的環境に対応した危機意識の共有と課題対応を迅速に図る学校づくり</p>	<p>(1)全国通信制高等学校認証校として変化を怖れず次の時代に挑戦する学校</p> <p>ア EdTech を徹底して活用した学校デジタル化の推進</p> <p>イ 新たな特色づくりと新たな生徒層も視野に置いた各コースの見直し</p> <p>ウ 技能連携校との連携を深めるビジョン作成と EdTech の更なる活用</p> <p>(2)安全で安心できる信頼される学校</p> <p>エ GoogleWorks による個別最適化の学習や連絡等徹底活用とオンラインとリアリティーのバランスの取れた教育実践</p> <p>オ 向陽台コンソーシアムによる連携強化と発信力の工夫</p> <p>カ 生徒数状況、進路実績、開講講座数等学校基礎データの共有と運営体制の検討</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校デジタル化を教職協働で進め、レポートのオンライン化、会議資料ペーパーレス化、タブレット端末の活用、欠席連絡のオンライン化を進める。</p> <p>イ 教育相談機能の充実に向けた学年相当制の具体化と各コースの指導等見直しによる生徒ニーズに応じた生徒増につながる対応策の検討</p> <p>ウ 技能連携校との連携将来ビジョンの作成と連絡・報告のオンライン活用等 EdTech の活用、通信教育規定の順守確認</p> <p>(2)</p> <p>エ GoogleWorks 等による連絡、オンラインとリアリティーのバランスを考えた教育実践例の提示</p> <p>オ 連携機関の拡大と情報発信によるホームページ・SNS を活用した実践紹介</p> <p>カ 「向陽台基礎データ」として学校デジタル化のもと教職協働の観点でまとめ、共有する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア レポートのオンライン化等学校デジタル化の進捗。</p> <p>学校評価「本校の教育方針・理念の理解し共有している」達成度 50%以上</p> <p>イ 学年相当制における業務の具体化と各コースの特色の具体化と将来構想案</p> <p>学校評価「生徒や保護者のニーズに応じた教育活動」「他校にない特色ある教育活動」達成度 80%以上</p> <p>ウ 技能連携校との連携将来ビジョン案。各校との連絡・報告・会議等のオンライン活用による業務のシブ化度</p> <p>(2)</p> <p>エ 学校評価「生徒の実態を踏まえ指導方法や学習形態の工夫・改善」達成度 80%以上</p> <p>「本校の教育課題について教職員で日常的に話し合っている」「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会」での情報共有、研修等の役割で両項目の達成度 60%</p> <p>オ 特色ある教育実践や先進事例、トピック等学校紹介の発信。学校評価「ホームページで可能な範囲で情報公開している」達成度 80%以上</p> <p>カ 「向陽台学校基礎データ」のデジタル化・デスクネット等での共有フォルダ</p>	<p>(1)</p> <p>ア iPad を活用しレポートのオンライン化約 70%会議資料 iPad によるペーパーレス化は定着。</p> <p>レポートオンライン化に関するオンライン研修・オンライン教材作成。Web 出願は教職協働で初年度 97%強達成</p> <p>等学校デジタル化は確実に進む(◎)「教育方針・理念の達成度・達成度 53.3%」(昨年比 6.7%増)(◎)生徒アンケート「他校にない特色ある教育活動がある」満足度 88%</p> <p>イ 学年相当制の体制の土台ができつつある(△)コースについては進学アドバンスコースのカリキュラムの具体化を図る(○)今後、コースの充実とネットクラブとの連携を更に進める。</p> <p>「ニーズに応じた教育」達成度 84.4%</p> <p>「特色ある教育活動」達成度 93.3% (昨年度比 6.5%増)(◎)</p> <p>ウ 技能連携校との連絡・報告のオンライン活用は定着。総合体育大会・全国総合文化発表会等行事を実施した。e-スポーツ大会は定着(○)関係技能連携校の学校協議会・役員会で通信教育規定順守及システム変更の実施を伝達(△)次年度確実に達成必須。</p> <p>(2)</p> <p>エ GoogleWorks 等による連絡は定着している。今後、保護者との連絡メールアドレスによる徹底を図る(○)次年度、保護者のメールアドレスによる連絡体制を構築することとした。</p> <p>オンラインとリアリティーのバランスを考える教育実践例としてレスポンスコレクターによる学習ログを活用した事例の集積を実施(○)レスポンスコレクターの活用が本校教育実践の特色とする学校方針を明示。</p> <p>「指導方法や学習形態工夫・改善」達成度 95.6%(◎)「本校の教育課題、日常的に話し合う」達成度 68.9%」「研修等の情報共有 51.1%(昨年度比 9.6%増)」(△)生徒アンケート「授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い」満足度 86.1%</p> <p>オ ホームページを改編し、通信教育計画等を記載(○)SNS の活用した実践紹介は継続検討。「ホームページでの情報公開」達成度 80.0%(○)</p> <p>カ 「向陽台基礎データ」として生徒数、コース別生徒数等基礎となるデータの共有が教職協働行う。本校での教務システムとの連携が進む(○)技能連携校とのシステム連携が進まず(×)継続して、基礎データの集約と教務システムでの管理体制等の検討が必要。次年度の課題(△)。</p>

<p>学園及び本校の未来を託す人材の育成と 学園・学校の良さを継承と充実・発展のための一体感のある機動的でフレキシブルな組織づくり</p>	<p>(1) 学校デジタル化のもと通信制高校の特徴を活かした指導力・授業力の教育力量を高めるチャレンジの支援とマネジメント力の育成 ア 人材評価制度の育成活用と学校運営でのマネジメント力の育成 イ オンラインを活用した受験指導を含めた教科指導体制及び相談機能の充実に向けた学年担当制の試行 ウ 中期経営計画をもとに後継人材の確保と計画の確立</p> <p>(2) 学校デジタル化に伴う校務分掌組織の見直しと学校改革の組織的計画的推進 エ Web 入試の着実な実行等学校デジタル化の進展と教職協働による情報管理・情報共有 オ 新たな向陽台学校運営体制での若手メンバーの活性化 カ 技能連携校の Edtech 活用の推進と業務の整理及び関係技能連携校への拡充 ビジョン案の作成</p>	<p>(1) ア 育成の観点に基づく面談等の実施と意欲づくり等評価の充実に向けた案の提示 イ 授業や教育相談での活用事例での工夫等のまとめと発信及び校内研修等の実施 ウ 教科指導体制における教員数の実態把握と学園全体の状況及び本校の特質を視野においた採用に向けた対応策の工夫</p> <p>(2) エ Web 入試の実施に向けたと学校事務との連携による事務業務の整理 オ OnTheJob による人材育成と学校課題への対応に関する横断的なプロジェクト組織による対応策の運営会議等への提示 カ 技能連携部の時代を見据えた業務シンプル化とオンラインを踏まえたオンライン化の推進及び新システム等への着実な移行。拡充ビジョン等技能連携校への連携強化策の提示と連携深化</p>	<p>(1) ア 令和6年度教職員体制での登用及び評価制度の現場に即した充実への対応。 学校評価「教職員は職場全体の中での自分の役割を認識し行動している」達成度 70%以上 イ 学校評価「校内研修を企画・運営する組織が確立し計画的に研修が実施されている」での達成度 50%以上 学校評価「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」での達成度 45%以上 ウ 教科バランスの改善に向けた専任教員数・常勤講師の確保及び計画案提示</p> <p>(2) エ Web 入試の実施と入試業務の整理。 学校評価「事務職員との相互理解・連携」達成度 65%以上 オ 将来展望に基づく案の学校経営への反映を図る。学校評価「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間環境ができている」達成度 70% カ 技能連携部業務の整理と新システムへの移行の完了。拡充ビジョン案による技能連携校との連携実績</p>	<p>(1) ア 人材評価育成制度を計画通り対応している。本人の意欲等の評価と役割等を反映できる評価の充実に向けて検討を進める(△)「職場全体の中で自分の役割認識・達成度 68.9%」処遇への反映に関する工夫が必要 イ 学習ログを活用するレスポンスコクターの活用に向けた校内研修会 7月31日実施。更に1月職員会議でも実施、向陽台の教育の特色として事例の集積していく(○)今後、向陽台の特色として発信していく方法検討。向陽台の指導方法にしていくことを明示した。 「研修企画組織と計画的研修実施・達成度 66.7%(昨年比 26.2%増)」(◎)「研修等の情報共有 51.1%(昨年度比 9.6%増)」(◎) 学年担当制については継続課題 ウ 通信制に応じた教育内容の継続を図る教科指導における教員の確保に向け、中期経営計画に基づき学園全体の状況及び本校の特質を視野においた採用を理事長と協議のうえ実施(△)次年度、主要5教科における本校の指導ノウハウを引き継げる人材の確保が必須課題である。</p> <p>(2) エ Web 出願を実施した。2月10日志願者の約97%が Web 出願。関係中学校等の理解を得た。教職協働での実施(◎) 「事務職員との理解・連携・達成度 40%」(×)業務のかかわり方による評価の高低が影響している。今後更により役割を明確にしながら教職協働を進める。 オ 学校デジタル化の学校課題でのオンラインポートの実施や iPad の活用等での具体案の提示や教務システムから見た受講登録の課題等があり検討した。全体の職場の人間環境としては「教育活動の問題や悩みを気軽に話し合える・達成度 66.7%」と微増、背景に「校内ですれ違った他の教職員とは挨拶したり気軽に話かけたりしている・達成度 84.4%」がある。(○) カ 技能連携部の業務の見直しとして役員会・協議会等の会議の見直しを図り、役員会と協議会を精選した。次年度以降さらに精選する。(○)通信制高等学校がオンラインによる技能連携校への協力と実施について各会議等で理解を図り実施する。新システムへの移行完了はできず、早急に対応する(×) 令和6年度技連部での ICT 活用力のある教員等の配置と応援体制を構築し年度内に新システムに完全移行を行う</p>
---	--	---	--	---

<p>全国展開を視野にEdTechを活用した学校づくりと「向陽台roman」の実現</p>	<p>(1) 時代に挑戦する学校の特色づくりと学校デジタル化推進 ア Googleworks を徹底活用したオンラインでの取り組みの具体化 イ 「21 世紀の教育」を視野に置いたコースの再編・モデルカリキュラムの作成と発信 ウ 向陽台コンソーシアムによる関係機関との連携したキャリア教育の推進</p> <p>(2) 「向陽台roman」に向けた取り組み エ 本校の教育理念のもと「学びを止めない学習者主体の教育」でのオンラインと実体験を組み合わせたカリキュラム作成の検討と教育実践の展開 オ Googleworks を徹底活用したオンラインでの取り組みとその成果をまとめ、本校特色として発信する。</p>	<p>(1) ア オンラインレポートの対応を確実に進めると共に生徒連絡、欠席連絡等具体的に着実に進める イ 進学コースを中心にオンラインを活用した進学コースに対応した具体的なカリキュラム案等コース再編を進め個別最適な学びモデルの発信につなげる。</p> <p>ウ 「文科省委託事業」を外部委員の協力も得て進めると共に茨木市教委と連携し「令和の時代の新たな教育」を視野に生徒の多様なニーズに応じ工夫したEdtechを活用したキャリア教育モデルのまとめの作成</p> <p>(2) エ EdTech 活用を更に推進し、オンライン教材を活用した生徒の興味関心を高め学習ログにつながる指導方法の展開 オ プロジェクトを中心に連絡・授業等での方法・活用事例の紹介、研修会、報告などデスクネット等オンラインを活用した周知徹底の積み上げを図る。</p> <p>*文科省委託事業「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」3 年目を「文科省委託事業」と記載する。</p>	<p>(1) ア 学校実務での具体化。教職協働での業務内容整理とデジタル化の進捗。学校評価「教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携が行われている」達成度 45%以上 イ 進学コース素案等コースの特色及び内容整理の具体案提示。学校評価「意見対立がある場合相手の意見を尊重し…」達成度 60%以上 ウ 新たな多様なニーズに応える生徒の興味関心を高める向陽台「キャリア教育モデル」の提示</p> <p>(2) エ Gworks 十分活用できる教員 85%以上及び学校評価「「わかる授業」を目指し授業の組み立て等の準備を十分にしている」90%以上 オ PJ からの周知等発信でのデスクネット等活用 12 事例。学校評価「教職員は職場全体の中での自分の役割を認識し行動している」70%以上</p>	<p>(1) ア オンラインレポートが着実に進み、10 月時点で約 70%の活用。デスクネットにオンラインでの手順紹介等工夫して進めている。欠席連絡等をより進展させるために保護者のメールアドレスでの連絡も行うよう準備している。(○)教職協働で対応する必要がある。 「教員と事務職員との…達成度 40%(昨年度比 6.7%増)」(×) 生徒アンケート「レポートは適切な内容・分量である」満足度 87% イ 進学コースの充実を図りながら進学アドバンスコースに向けた具体的なカリキュラムを検討(△)コース再編について今年度の入学状況を分析のうえ、教職希望コース等再度コースの方向性を確認して授業料無償化完全実施の令和 8 年度にむけて再編する。「意見対立がある場合相手の意見を尊重し感情的にならずに話している…達成度 71.1%(18.7%増)」(◎) 生徒アンケート「進路希望に応じた多様な講座が用意されている」満足度 87%</p> <p>ウ 「文科省委託事業」は外部委員と協力して進めている。多様なニーズに応じた取り組みでの異世代交流を活用した実践について文科省の見学があり向陽台高校の教育実践への好評価を得た。キャリア教育に向けたまとめの冊子できた。茨木市教委と連携は深まり講師や関係委員を受けている。(○)</p> <p>(2) エ Gworks は標準となりほぼ活用している。オンライン教材を活用した生徒の興味関心を高めるため学習ログを活用した「レスポンスコレクター」の教育実践を学校の特色ある指導方法として取り組むこととした。(○) 「わかる授業を目指し授業の組み立て等の準備を十分にしている…達成度 93.3%」(◎) 生徒アンケート「授業は私にとってわかりやすい」満足度 77.8%</p> <p>オ Gworks 活用プロジェクトを中心に連絡・授業等での方法・活用事例の紹介、研修会、報告などデスクネットを活用したオンラインと職員会議で行い、周知徹底を継続的に取り組んだ。理解が促進された。今後、事例等のまとめが必要。「職場全体の中での自分の役割を認識して行動…達成度 68.9%」(△)</p>
---	--	--	--	---

「主体的学習を支える教育」を充実させる「世紀の「未来の教室」を目指し「学校力量」を高める
EdTechを徹底活用した多様なニーズに応じた教育「生徒に寄り添う教育」「学びを止めない教育」

(1) 学校デジタル化のなか多様なニーズに応じた ICT 活用による学び直しとチャレンジ精神を高める授業実践力の向上
ア 学校デジタル化のなかでの個別最適化の指導と学習の活用
イ 双方向学習アプリやメディア教材等を活用した授業の発信や教育相談での活用
ウ 学校クラウドの検討

(2) オンラインも活用したキャリア形成・就労支援への指導力向上と相談におけるコミュニケーション力も含むカウンセリングマインドの育成
エ 各コースの内容と特徴の明確化と類型別モデルカリキュラムの発信
オ 丁寧な教育相談に向けた教育相談体制の整備による組織的な相談体制の構築
カ 特色のある講座等を活用したモデルカリキュラムの作成と発信

(1)
ア 学園 EdtechPJ と連携し RC 等学習動画視聴支援ツールを活用した実践を進め、学習の活用を検討
イ 各教科でのメディア教材等の整理、活用での課題等まとめ作成。教育相談等生徒支援につながる学年担当制における活用の検討
ウ 学校クラウドの活用方法等継続して検討

(2)
エ オンラインとリアリティのバランスを配慮した生徒のニーズに応じた進学コースの内容再検討及び「ニューソグラブ」と連携・活用した大学進学指導体制等生徒ニーズに応じた指導体制の具体化と類型別モデルカリキュラムの発信
オ 学年担当制における教育相談体制の在り方等学年担当制の業務内容の整理と学校運営組織での位置づけの明確化
カ 特色ある講座を活かしたオンラインも活用したカリキュラムモデルの検討・発信と取得資格等の例示の発信。

*「レスポンスコレクター」
(Response Collector)
授業の充実と学習の活用による個別最適化の学びへの支援ツール。反転授業の事前学習動画視聴システム。
豊橋技術大学内山慎太郎氏より紹介されたもの。

(1)
ア レスポンスコレクターの活用状況と学校評価「生徒の実態を踏まえ指導法や学習形態の工夫・改善を行っている」達成度 70%以上及び「わかる授業を目指し準備をする」達成度 90%以上
イ 各教科のメディア教材の整理とまとめ
学校評価「教科指導において視聴覚機器や情報機器が積極的に活用されている」達成 70%以上。生徒評価「授業の教え方で様々な工夫をしている先生が多い」85%以上
ウ 学校クラウドの具体化と学園クラウド案の提示

(2)
エ コースの整理案と進学にかかえるコースカリキュラムの具体化及び令和 6 年度学校運営体制への反映
オ 学年担当制の分掌業務の整理と次年度学校運営組織での反映。生徒評価「先生は生徒の悩みや相談に丁寧に対応してくれる」満足度 80%以上
カ 生徒評価「私は向陽台高校での生活に満足している」及び「本校には自分が学びたいと思える講座が多数ある」生徒満足度 80%以上
学校評価「本校には 他校にない特色ある教育活動が行われている」達成度 80%以上

(1)
ア 学習動画視聴支援ツールとしてのレスポンスコレクター活用の校内研修会を 8 月 31 日実施。1 月にも研修会を行い、実践事例を集積することとした。
(○)
「生徒の実態を踏まえ指導法や学習形態の工夫・改善・達成度 95.6%」(◎)
「わかる授業を目指し授業の組み立て等の準備を十分にしている・・・達成度 93.3%」(◎)
イ 各教科で ICT 活用は進んでいる。メディア教材等の整理とまとめは発信できるよう引き続きの課題(△)進路部等アプリ活用例のもあり、教育相談等生徒支援につながる工夫をさらに進める(○)「・・・視聴覚機器や情報機器が積極的に活用・・・達成度 86.7%(昨年度比 3.4%増。一昨年度比 28.7%増)」(◎)
生徒アンケート「教え方で様々な工夫をしている先生が多い」満足度 86.1%(昨年度比 4.8%増)」(◎)
生徒アンケート「自分が学びたいと思える講座が多数ある」満足度 72.3%
ウ デスクネットのクラウド化が総務中心に行われた。学校クラウドの活用方法等検討中(△)

(2)
エ オンラインとリアリティのバランスを配慮した生徒のニーズに応じたコース内容を継続して検討。類型化カリキュラムとして「向陽台 GrowUpProgram」案を作成した。更に検討を加え向陽台の教育の可視化を図る。募集に活用する(○)進学コースの工夫を行った。さらに超難関大学をも目指す進学アドバンスコースの具体化を引き続き図る。
オ 学年担当制における教育相談体制の在り方について引き続き検討(△)本校について説明できる教員を確保して入学相談、進路相談等相談体制の構築を図ることが次年度の大きな課題である。
生徒アンケート「先生は生徒の悩みや相談に丁寧に対応してくれる」満足度 73.2%(△)
「生徒指導(遅刻・服装・携帯・喫煙等)は納得できる」満足度 94.5%
カ 特色ある講座を活かした類型別カリキュラム案に反映。特色ある講座のオンライン化や取得資格等の例示を行う。次年度、神戸親和大学と高大連携科目を実施する。
生徒アンケート「本校での生活に満足している」満足度 84.3%
「学びたいと思える講座が多数ある」満足度 72.3%
「本校には他校にはない特色ある教育活動が行われている」満足度 88.0%(○)
学校評価「本校には他校にない特色ある教育活動が行われている・・・93.3%」(○)
特色ある教育活動については生徒・教員とも高い評価である。

「向陽台コンソーシアム」に基づく関係機関等と連携したデジタル教育の実践や特色ある教育の積極的な広報・発信

(1) 教育理念異に基づく学校力量を高める外部機関等との教育連携の一層の推進
 ア 義務教育段階からの市町村連携モデルの着実な実施
 イ 中学・高校・大学・大学院へとつながる通信制の検討

(2) 本校の社会的意義・役割の周知と協力関係の構築を目指すHPの充実とSNS等を活用した本校の特色ある授業や行事等Web発信の拡充
 ウ 文科省委託事業や「パナソニック奨励研究」「放送教育研究」等の研究実績の効果的な周知の検討と発信
 エ 学校デジタル化での推進と実践事例の発信

(3) 技能連携校との組織的連携関係の充実
 オ EdTech活用による学び直しと自尊感情を育てる教育実践の共有
 カ 「地域一体地域循環還元型教育」の実践例の収集
 キ 向陽台総合学院との連携体制の再検討

(1)
 ア 茨木市との継続的な連携事業の実施と整理及び発信の実施
 イ コース再編等における将来像の検討・提示を運営会議で実施。摂陵高校との関係・連携方法等の模索

(2)
 ウ 研究実績や学校紹介等の学校HP・SNS等での効果的な発信方法の検討
 エ 学校実践の継続的な事例集積と効果的な発信の検討

(3)
 オ 技能連携生徒部研修等各研修会での事例紹介とGoogleWorksを活用した指導ノウハウの共有化
 カ 各校の地域との関係事例をまとめ、技能連携協議会等で共有、広報誌向陽台で誌上発表や向陽台HPでの発信等の検討・実施
 キ 指導体制等、本校の現状に即した具体的な検討策と協議の実施

(1)
 ア 実践事例の集積とまとめの作成及び発信。参加児童生徒のアンケート満足度80%以上
 イ 向陽台ビジョンとして職員会議等での提示

(2)
 ウ 研究実績の学校HPでの掲載及び行事等学校紹介の掲載
 エ 近通研等各種研究会での発表及び学校HP等での事例紹介

(3)
 オ 技能連携協議会での事例紹介の事例数5とGoogleWorksでの事例ノウハウの掲載
 カ 各技能連携校からの事例紹介と情報の共有としてのオンライン化及び広報誌等の活用状況
 キ 現状に即した指導連携体制案と3年総括案の作成・提示

(1)
 ア 茨木市との継続的に連携事業を実施、地域の高齢者の参加を得た異世代交流も実施。市主催の研修会や講座等での実践紹介を実施。連携の実践事例を含めたまとめを作成(○)
 イ 向陽台romanとして多様なニーズに応じた受け止め支え気づき気づかせ伸ばす教育として向陽台の教育力量を伸ばす大学との教育連携を進めることを検討・提示。神戸親和大学と協定を結ぶ(○)
 教育理念を共有できる大学との連携を進めていく

(2)
 ウ 文科省委託事業「多様性に応じた新時代の教育の充実支援事業」に関する冊子のまとめを作成。研究実績や学校紹介等の学校HPで紹介する。SNS等での効果的な発信は、今後、検討を継続する。(○)HPの改編を実施し、更に充実に向けて検討している。
 エ 学校デジタル化は進む。学校デジタル化事例として学校運営・校務運営での事例発信が必要。学校実践でのレスポンスコレクター活用やその他アプリ活用事例をまとめていく。(○)
 教育力の向上に資する研究助成等を受けていく方針を継続する。意欲の向上にもつながる。

(3)
 オ 技能連携校の理事、校長・主事・生徒指導・進路研修等各研修会での本校の事例紹介等指導方法の相互交流を継続して実施。通信教育規定の改正を受けたガイドラインの周知と新システムへの対応依頼。神戸親和大学との協定を伝え本校だけでなく高等専修学校での進路の拡充を図った。(○)
 技能連携校からの高評価を得ることができた。
 カ 生徒リーダー研修での意見交換をもとに向陽台通信での相互理解が進み生徒交流に結びついた事例も見られた(○)
 キ 集中スクーリング方式での指導体制となるが、生徒の出席状況等の影響もあり本校「スクーリング」での対応した生徒もある。本校教員数の状況もあり教員の指導体制が取れない現実が継続している。3年目の総括として募集人員を満たさない状況続いている現状と当初の目標とした各種学校ICTモデル校とは違うさん学校実態となっていることや予算上の問題を踏まえ6月に前理事長に校長としての総括を報告した。(△)